

備える。

準備。予備。整備。装備。守備。警備。
そなえる…用意する、そろえる、用心する
防備。常備。完備。不備。具備。兼備。
そなえ…したく、用意、警戒、防衛
備品。設備。備蓄。備員。備考。備忘。
そなわる…準備ができる、身に付く
●●●ソナエ アレバ ウレイナシ!!



かわさき
防災広報紙

昭和60年4月30日発行
編集・発行：
川崎市土木局防災対策室
〒210 川崎市川崎区宮本町1番地
TEL.(044)200-2111内線2841



あらためて、備える。

伊で地震警報 5万人避難

朝日新聞夕刊見出しから

この1月下旬、イタリアで世界でも初めてといわれる「地震警報」が発令された、というニュースはご存じですね？

その内容は「2日以内に大地震が起こる可能性がある」というものでしたが、地域的な条件もよくパニックなど大きな混乱もないまま、結果的には地震も起こらず、

警報はカラ振りに終わりました。

日本でこのような警報が出されるのは「東海地震」だけですが、もし実際に日本で発令されたら：どうなるか心配です。本当の地震がくる前から、デマや憶測で混乱していたのでは、どうにもなりません。まして本物の地震が起こったら、どうなってしまうのでしょうか。

地震について、最小限の知識を持つだけでも、デマや混乱の多くを防ぐことはできます。自分の持っている地震の知識と照らし合わせると、どう考えてもおかしいという情報に接したときに、一人ひとりが冷静に考えて行動するならば、デマの広がりやパニックを最小限にすることができます。そのためにも、地震についての知識を、あらためて、あらかじめ備えておきましょう。

★ 毎月15日は川崎市民地震防災デーです ★

あらかじめ、備える。地震についての予備知識

地震はどうして起きるのか

地球の表面を覆っている地殻は、いくつかのプレートによってできており、それぞれ年に数センチの速さで動いています。そのプレート同士が重なり合うところでは、ひずみがたまり、それが耐えられなくなると、はねあがり、地震になります。

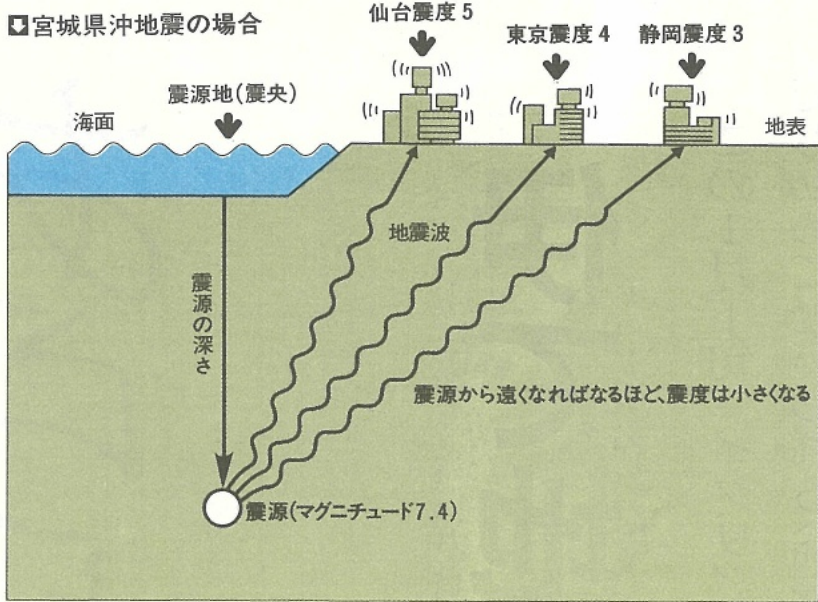
このプレートの重なり合う境が、日本列島の太平洋側にあり、大きな地震がくり返し起こる原因になっています。

M(マグニチュード)と震度

M(マグニチュード)は、その地震そのものの大きさのことをいい、震度は、その場で感じた地震の揺れの強さを示しています。両方とも数字が大きければ地震が大きなことを示しますが、違った意味を持っています。

ステレオのスピーカーから出ている音にたとえると、元の音の大きさ(M(マグニチュード))がどんなに大きっても、スピーカーから離れていけば音(震度)は小さく聞こえ、逆に元の音(M(マグニチュード))が小さくても、スピーカーのすぐそばならば音(震度)は大きく聞こえます。この場合、音の大きさがM(マグニチュード)で、その人がその場で感じる音の強さが震度にあたります。

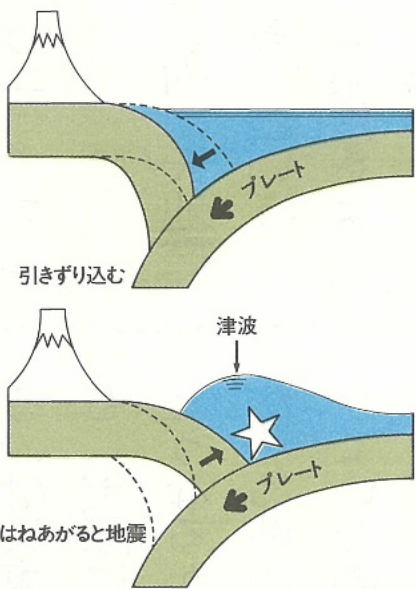
宮城県沖地震の場合



震度のめやす(気象庁震度階)

震度	ゆれの程度	ガル相当加速度	参考
震度0 (無感)	人体に感じない。地震計に記録される	0.8以下	毎日起きる
震度1 (微震)	静止している人、特に地震に注意深い人だけに感じる	0.8~2.5	数日に1回ぐらいの割合で起きる
震度2 (軽震)	大勢の人に感じる 戸・障子がわずかに動くのがわかる	2.5~8	月に1回ぐらいの割合で起きる
震度3 (弱震)	家はゆれ、戸・障子はガタガタ鳴り、電灯のようなつり下げた物はかなりゆれる	8~25	数ヶ月に1回ぐらいの割合で起きる
震度4 (中震)	家は激しくゆれ、すわりの悪い花びんなどは倒れる。歩いている人にも感じられる	25~80	●青森('83日本海中部地震・M7.7) ●横浜('83神奈川県西部地震・M6.0)
震度5 (強震)	壁に割れ目が入り、墓石・自動販売機などが倒れたり、石垣・ブロック塀がこわれる	80~250	●新潟(新潟地震1964・M7.5) ●仙台('78宮城県沖地震・M7.4) ●秋田('83日本海中部地震・M7.7)
震度6 (激震)	家屋の倒壊は30%以下で、山くずれや地割れができ、多くの人々が立っていられない	250~400	●東京(関東大地震1923・M7.9) ●横浜(関東大地震1923・M7.9)
震度7 (超激震)	家屋の倒壊は30%以上になり、山くずれ、地割れ、断層などができる	400以上	●福井(福井地震1948・M7.3) ※記録としては震度6

日本の太平洋側

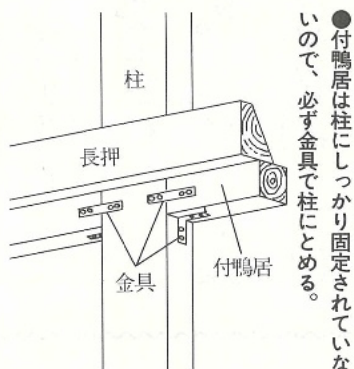


地震の常識

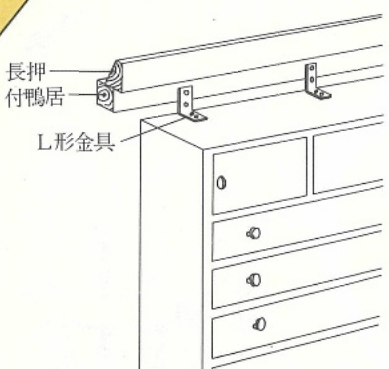
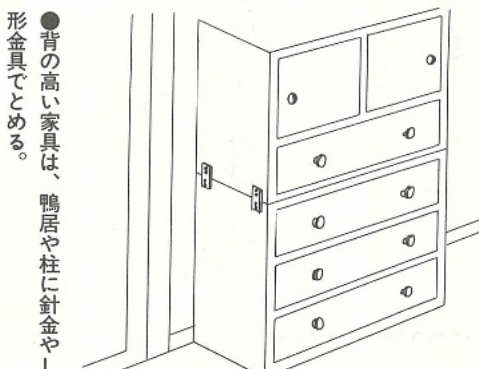
- 大きな揺れは1分ぐらい
- 余震は本震より小さい
- 地震予知は東海地方の大地震だけ
- 地震のあとは津波に注意

身の回りの安全 レッスン ① 家具のとめ方

家の中のケガをふせぐため、家具などは柱にしっかりと固定しましょう。



● 付鴨居は柱にしっかりと固定されているので、必ず金具で柱にとめる。



幼稚園で

北羽新報社編「M7.7真昼の恐怖」から
能代市 相沢孝子さん 幼稚園教諭

『大丈夫だから、大丈夫だから、大丈夫だから』

正午少し前、「お弁当、お弁当、うれしいなあ」と、いつものように園児たちの元気な歌声が聞かれ、昼食のパン、牛乳などで楽しい食事が始まった。

年長組の五歳児の中には食べ終わらうとしていた園児もいたが、年少組の三歳児はまだ半分も食べていない。ちょうどその時、グラグラグラと大きな揺れが幼稚園を襲った。

各クラスの教諭たちは、冷静に、しかし早口で「机の下に隠れなさい」と園児に向かって大声で叫んだ。四五歳児は月一回、地震に備えて、地震が来たら机の下に入る、という訓練を行っていたため、あまり混乱もなく全員がサツと机の下にもぐったが、入園して間もない三歳児はそうはいかない。

「お母さん」と泣き叫ぶ子、「先生」と抱きついて来る子、なかには落ちて割れた花瓶の破片を、「ハイ先生」と持って来る子もいた。年少組担当の相沢先生はまわりに集まってくる子どもたちを「大丈夫だから、大丈夫だから」となだめるのに必死だった。

しかし揺れは強くなる一方、立っていることも出来なくなり、一人の園児が泣き出した。それが次から次へと伝染し、年少組のクラスは泣き声で騒然となった。相沢さん自身、地震はすぐ収まると思っていたが、なかなか収まらず教室はギュー、ギューときしむ音が響き、いまにも崩れそう。「もうダメか」という戦りつが一時止った。

ようやく揺れが収まった。地震発生から約五分後、各クラスの教諭は急いで園児たちを園庭に避難させ、人数を確認。一人のケガ人もなく、ホッと胸をなでおろした。しかし、それもおつかの間、津波警報を聞いた同市下浜の父兄が幼稚園に「波がそこまで来ているぞ」と息を切らしてやって来た。

そのときはまだどの教諭も、地震イコール津波などとは頭の中になかった。しかし、海に近い幼稚園、「もしかししたら、ここまで津波が押し寄せて来るかもしれない」と教諭たちは急いで園児を整理させ、能代公園へ。四、五歳児は徒歩で公園に向かったが、三歳児は送迎バスに乗せて公園に避難した。

子どもたちの安全を父兄に知らせるため、能代警察署に手配したところテレビで報道され、次々と父兄が子どもを引き取りに公園にやって来た。午後三時ごろまで公園に待機していたが、地震の恐怖に泣いていた園児も、父兄の顔を見て安心したのか泣き止み、迎えにこられなかった園児約十五人はバスで無事に家に送り届けた。二百人を超える園児を親元に帰して、安どしたのか、教諭たちの目から涙があふれ出した。